

■「タックル自慢、夏に鍛える－1部6校のLBたち」③

低いタックルで－東京農業大

8月4日午後2時、網走市八坂の東京農業大生物産業学部のグラウンドにファイティング・ラディッシュの選手たちが続々と集まってきた。帰省休み明けの練習再開初日。RB大類楽主将（4年、神奈川・平塚農商高）の号令でウォームアップが始まった。2年ぶりに1部に復帰した今季、28人の部員の目標は、新型コロナウイルスによる棄権もあって4敗1分けの未勝利で終わった2年前の雪辱と、1999年以来25年ぶりとなる1部残留だ。25日の秋季リーグ開幕戦の北海道大戦まであと3週間。グラウンドに散った部員たちから気合の声が上がった。

昨季の2部最優秀選手に輝いたエースQBが卒業し、2年生QBの関叶翔（茨城・日立北高）が攻撃を指揮する今季。期待の新司令塔を盛り立てるには守備陣の奮起が欠かせない。4-3守備の中核を担うLBは藤沢清芳（4年、岩手・盛岡第四高）が中央に、若井純太（2年、旭川永嶺高）と河野湧斗（2年、千葉・松戸馬橋高）が両サイドを固める。藤沢と若井はRBと、河野はOLとの兼務だが、藤沢は「ラン守備のスピードが持ち味」と胸を張る。パス守備も「アウトサイドの若井と河野は足が速い。パスゾーンをしっかりとカバーできる」と自信を見せる。

2年ぶりの1部リーグの腕試しとなった6月30日の室蘭工業大とのオープン戦は、QB関からWR浅川夏暉（2年、東京・安田学園高）へのパスで先制しながら、逆転を許して6-15で惜敗した。LB藤沢は「一発で相手RBを倒せなかった。タックルが高くなった」と、ランプレーで許した2TDを反省しながら、「足をつかまえる低いタックルを徹底する」と修正点を確認。「DBまでランプレーを走らせない」と改めて決意する。若井も「反応速度が自慢、オープン絶対止める」、河野も「当たり負けしない。横の動きも自信がある」と活躍を誓った。（塚田博）



【写真】「低いタックルで仕留める」と意気込む左から若井、藤沢、河野のLB陣